

薬学部における一般用医薬品の教育

慶應義塾大学薬学部
社会薬学講座
福島紀子

薬学教育モデルコア・カリキュラム(H14.8)

B インTRODクシヨN

一般目標:

薬学生としてのモチベーションを高めるために、薬の専門家として身につけるべき基本的知識、技能、態度を修得し、卒業生の活躍する現場などを体験する。

(1) 薬学への招待

一般目標:

薬の専門家として必要な基本姿勢を身につけるために、医療、社会における薬学の役割、薬剤師の使命を知り、どのように薬学が発展してきたかを理解する。

【薬について】

到達目標:

1. 「薬とは何か」を概説できる。
2. 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。
3. 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。
4. 種々の剤形とその使い方について概説できる。
5. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。

C18 薬学と社会

一般目標: 社会において薬剤師が果たすべき責任、義務等を正しく理解できるようになるために、薬学を取り巻く法律、制度、経済および薬局業務に関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的技能と態度を身につける。

(3) コミュニティーファーマシー

一般目標: コミュニティーファーマシー(地域薬局)のあり方と業務を理解するために、薬局の役割や業務内容、医薬分業の意義、セルフメディケーションなどに関する基本的知識と、それらを活用するための基本的態度を修得する。

【OTC薬・セルフメディケーション】

到達目標:

- 1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)
- 2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。
- 3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。

実務実習モデルコア・カリキュラム (H15.12)

(4) 薬局カウンターで学ぶ

一般目標:

地域社会での健康管理における薬局と薬剤師の役割を理解するために、薬局カウンターでの患者、顧客の接遇に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

《患者・顧客との接遇》

《一般用医薬品・医療用具・健康食品》

到達目標:

5. セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。(技能)
6. 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。

《カウンター実習》

到達目標:

7. 顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度)
8. 顧客が必要とする情報を的確に把握する。(技能・態度)
9. 顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。(技能・態度)
10. 入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)

OSCE (H21.12) (Objective Structured Clinical Examination)

客観的臨床能力試験 技能・態度を評価する

5領域から6課題出題: 1.患者対応、2.薬剤の調製、3.調剤鑑査、4.無菌操作の実践、5.情報の提供

5.情報の提供

薬局での薬剤交付
病棟での服薬指導
一般用医薬品の情報提供
疑義照会

慶應義塾大学薬学部における 一般用医薬品の教育

2年次 OTC薬とセルフケア (自由単位)

3年次 C18(3) 薬学と社会 (コミュニティーファーマシー) (必修)

地域医療を担う薬局

一般用医薬品について(3コマ)、漢方薬

リプロダクティブヘルス、サプリメント、健康食品

禁煙支援活動、アンチドーピング活動

4年次 実務実習事前学習 (必修)

OTC薬と服薬説明

薬局患者対応とOTC薬選択

セルフメディケーションと受診勧奨

実習

5年次 実務実習の前に (必修)

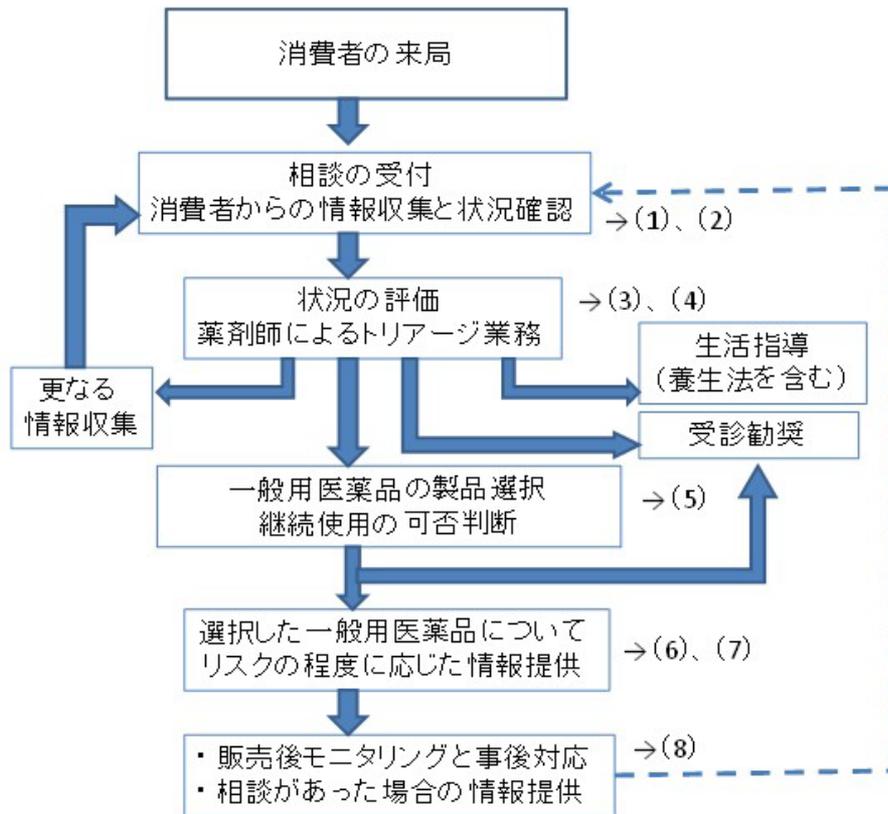
医師との協働講義

トリアージのためのフィジカルアセスメント

セルフメディケーションと受診勧奨

4年次 実務実習事前学習 SGDで行う
5年次 実務実習の前に 講義形式

必要に応じて販売記録(薬歴等)やお薬手帳を参照し、記録する



1. 一般用医薬品の使用が、消費者本人に適しているか否か。
2. 医療機関への受診を勧める必要があるか否か。
3. 生活指導(養生法も含む)で対応可能か。

薬剤選択のシミュレーション(医薬品選択)



薬剤師 「こんにちは、何かお探しですか？」

生活者 「何か、風邪を引いたみたいなんです。」

薬剤師 「どのような症状ですか？」

生活者 「朝から少し咳が出るなど思っていたら、鼻水も出始めたんです。」

薬剤師 「どなたが服用されるのですか？」

生活者 「私の娘です。」

薬剤師 「娘さんはおいくつですか？」

生活者 「17歳です。」

薬剤師 「娘さんの症状や具合について、不安なことはございますか？」

生活者 「最近勉強が忙しくて、きちんと体を休められなかったのよね。明後日に大事な試験があるんですよ。寝不足だから、夜はぐっすりと眠れるとよいのだけれど。」⁶



販売にあたって質問することは？

- 購入の動機はなにか
- 誰が使用するのか
 - 現在の様子はどうなのか
 - 問題の症状はいつからなのか
- 現在、医療機関にかかっているか
 - 他の薬やサプリメントをしようしているか
 - 妊娠しているか、妊娠する可能性があるか
 - 過去に薬の副作用やアレルギーはあったか
 - スポーツ選手で大会出場するのか など
- 「服用してはいけない人」、「してはいけないこと」に該当するか否か

其々の班で、選んだ薬の選択理由を聞く



- ・各班の発表を聞くことで、最適な薬が理解できる。
- ・正解は一つではないことも多い。
- ・最終的には、販売にあたっての考え方や経験を、現役の薬剤師から受ける。
- ・OTC薬実習の事前・事後調査から、OTC薬の教育の重要性が示された。

5年次 実務実習の前に (必修)

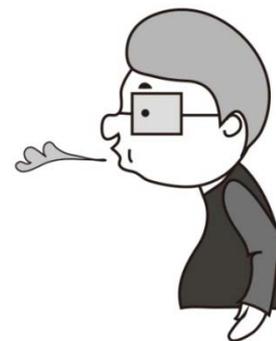
- 咳が止まらなると訴える患者さん
 - お腹が痛いと訴える患者さん
 - むくみを訴える患者さん
- あなたならどうする？

医師との協働講義

トリアージのための
フィジカルアセスメント

症例1

50代後半の男性 咳と痰が続いている。
何かよい薬はないか？



薬剤師からの質問の答え

治療中の疾患や服用中の薬剤、副作用・アレルギー歴なし
最近急に体力の衰えを感じるようになった。年のせいで、家に帰る道が登坂のため息が切れるようになった。
一度病院にかかった方が良くと思うが、時間がない。

咳・痰を訴える患者の医療面接

咳、痰の性状: 咳は乾性咳嗽か湿性咳嗽か。

痰は膿性痰、漿液性痰、粘液性痰、血痰

経過: いつから、どの程度の咳、痰があるのか。

発症は急か、以前より徐々に進行したのか。日内変化は？

誘因: 運動、薬物、場所、仕事やストレス、ペット、感冒

合併症: 発熱、悪寒戦慄、流涙、咽頭痛、くしゃみ、鼻汁、息切れ、呼吸困難、喘鳴、チアノーゼ、動悸、胸痛、胸やけ

嗜好品: 喫煙歴、飲酒歴

服薬歴: ACE阻害薬、 β 遮断薬など

職業歴: 有毒ガス、粉塵

これらにより、原因、重篤度、緊急性、他者への感染性を判断

咳の起こる状況と原因疾患

- 喘鳴を伴う: 気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫
- 早朝から午前中に多い: 慢性気管支炎、肺気腫、びまん性汎細気管支炎
- 就寝後: 肺うっ血、肺水腫・・・心臓喘息と言われた
- 深夜・早朝: 気管支喘息・・・副交感神経活動時
- 運動により惹起: 感染後の気管支過敏状態、気管支喘息

痰の性状と原因疾患

- 黄、緑色の膿性痰: 細菌感染
- 鉄錆色の膿性痰: ブ菌、連鎖球菌による肺化膿症、肺膿瘍
- 悪臭のある痰: 嫌気性菌感染
- 漿液性痰: 肺水腫
- 血痰: 肺がん、気管支拡張症

OTC薬販売前に考える

- 見る、聞くなどの観察から
少し前屈みの姿勢
息切れが見られる
- 喫煙歴が長い
口をつぼめて息をする
OTC薬で改善しない。

COPDは症状に気づかず、発見が遅れがちな病気

慢性気管支炎or閉塞性肺疾患
(COPD) chronic obstructive pulmonary disease

受診の後押し

- 患者の訴えから
「病院に行く暇はない。何かほしい」

一般的な鎮咳去痰薬の効果はほとんど期待できない。去痰成分のみのものを薦める
必ず受診することを強く薦める。

OTC薬乱用、依存の報告について

- 受診、中毒による救急搬入等の報告
 - 薬物関連精神疾患の671症例中、鎮咳薬症例は20例(3.0%)、鎮痛薬症例12例(1.8%)
(松本俊彦ほか, 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査 . 平成22年度厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書.)
 - 自殺企図による急性中毒の問い合わせ1346件中、一般用医薬品は18.2%
(日本中毒センター:2011年受信報告)
- 薬物依存経験者の証言
 - ダルクにおいて鎮咳薬依存者は入所者の18%を占める
(嶋根卓也, 薬剤師から見た向精神薬の過量服薬, 精神科治療学27(1), 2012)
- 大量、頻回購入者について薬剤師等からの報告
 - 薬剤師の19.5%が、鎮咳薬・総合感冒薬の大量販売を顧客から求められた経験がある
(嶋根卓也, 薬剤師の薬物乱用・依存に対する認識と薬局における一般用医薬品の販売実態について, 文部科学研究(若手B), 2006年度研究実績報告書.)

10歳代における一般用医薬品を用いた自殺企図・自傷行為の実態調査

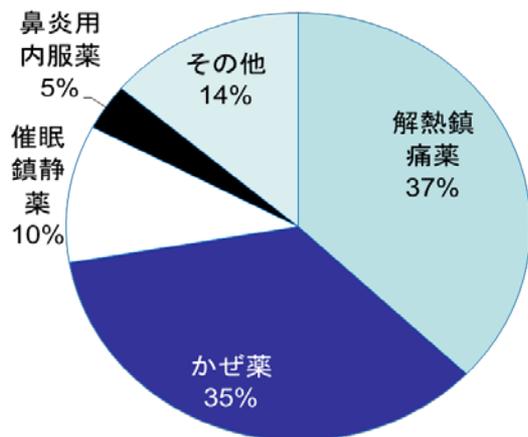
(荒木浩之ら 中毒研究25:77-80,2012)

1996~2009年に日本中毒センターへの問合せ事例

一般用医薬品を経口摂取した10代の自殺企図・自傷行為と推定される事例1,168件の患者背景や起因物質の調査

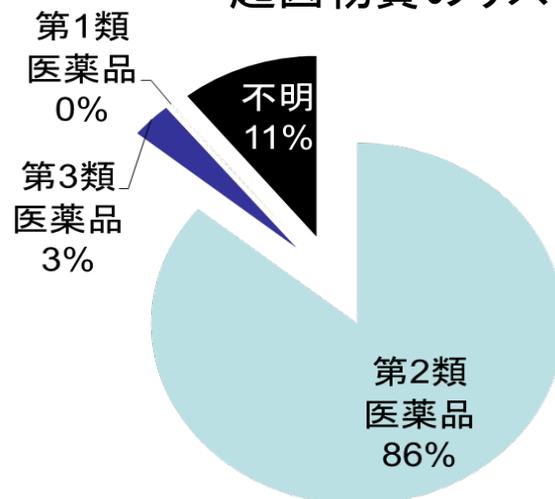
最少年齢は10歳(小学校4~5年生)で3件が確認され、年が上がるにつれ関数が増加した。性別では女性が78.3%を占めた。起因物質の種類は1種類が70.4%であるが、異なる薬剤を同時に摂取する事例も3割近くあった。

起因物質の製品分類



(n=1,168)

起因物質のリスク区分



OTC薬販売時における薬剤師の役割

- 購入者との双方向で同時性のあるコミュニケーションをとる
- 購入者の様子を観察する
- 代理人の場合は、使用者の様子を聴き取る
- 得られた情報から受診勧奨、OTC薬販売、生活指導のみなのかトリアージを実施する
- OTC医薬品の適正使用のための情報提供を行う
- OTC医薬品の乱用、依存者か自殺企図のある人なのか観察し、ゲートキーパーの役割を果たす